

学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 不破高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 平成30年5月23日(水) 13:30~16:00
- 3 開催場所 不破高等学校校長室
- 4 参加者 委員 竹内 治彦 岐阜経済大学教授
和田 満 垂井町教育委員会教育長
原川 拓雄 垂井町立不破中学校長
高木 淳一 不破高等学校PTA会長

学校側 内木 晃 校長
増田 泰志 教頭
田中 雅之 事務長
川瀬 英樹 教務主任
曾根 章好 生徒指導主事
臼井 澄人 進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

※不破高等学校活性化協議会終了後、以下について協議

- (1) 趣旨説明
- (2) 会長・副会長の互選
 - ・会長に竹内委員、副会長に和田委員を選出。
- (3) 学校運営の基本方針の承認
 - ・教育課程、学校経営計画(教育指導の重点、学校経営計画(高等学校版マニフェスト))、学校組織編成について、それぞれ承認。
- (4) 意見交換
 - ・教員の働き方改革にも携わっており、その視点から見てみても、学校運営やその活性化などの要求はまさに外部からの期待で行われることがほとんどのため大変である。いかに外部関係機関や地域との連携を密にするかが大切で、要求や期待のすべてを教職員が受け入れるのは難しい。
 - ・地域に密着することはよい面も悪い面もある。悩ましいことだが、教職員の働き方については行政も配慮したい想いもある。無理なことは無理であるが、かたや本校を存続させるための本校へのお声掛けの意味合いもある。
 - ・中学校と比較すると、部活動は地域に任せる方向へ動いている。しかし、高校ではなかなか難しい。二十歳くらいまでは学校とのつながりも近いので、そういう世代を活用できるといい。ボランティアも生徒の主体性を重視して行っている。中学生が参加する高校生の姿を見て感じることもある。

- ・地元地域におけるつながりは大切ではないか。他地区から入学している生徒も高校の3年間でこの地域で過ごしており、その時間が長いことから、地域というものを大切にすべきである。保護者としても考えさせていきたい。
- ・学校の要望と地域の要望をつなぐキーマンをどうしていくのか。また、コミュニティとしてのコーディネーターはどうするのかなどを考えていく必要がある。
- ・本校がどこのコミュニティとして軸足を置いていくのか。不破郡では成り立たないかもしれない。前提は不破郡ではあるが、入学者の状況を考慮すれば、現実としてもう少し広いコミュニティで考えるべきではないか。そのため、運営協議会委員の5名という人数構成も見直しが必要ではないか。
- ・学校経営の承認行為がこの5月では遅すぎる。もう少しは早める必要があるのではないか。

6 会議のまとめ

- ・本校の特徴である生徒一人一人を大切にす教育を実現するために行っている「少人数教育(授業)」や「多彩な選択科目の開講」、「学び直し」等の実践を、もっと外部発信できるよう一層努めていく。